

東京トレッキングクラブ

T. T. C. 会 報 2021年2月号

会長：飯田隆一

<http://www.tokyo-trekking-club.jp/>

今月号から山行計画の書き方を少し変更し集合場所を書くことにしました。このことにより集合場所までの来る方法は各自で選んでもらうこととしました。

《 2 月 の 山 行 計 画 》

No. 3, 607 高峰高原（高峰山、水ノ塔山）スノーシュー L 佐藤ツヤ子

スノーシューで雪山を登り、温泉で疲れを癒してのんびりしませんか。

2月7日（日）北陸新幹線佐久平駅9：08 集合（7:52 東京（はくたか553号）＝7:58 上野＝8:18 大宮＝9:08 佐久平）＝（タクシー約45分）アサマ2000 スキー場（宿の雪上車で宿へ）。

宿に到着後スノーシューで高峰山往復（休憩込みで約3時間）

8日（月）水ノ塔山往復、約4時間（雪の状況により途中までのことあり）

9時頃から14時頃まで行動

費用：約32,000円（交通費＋宿代、東京起点）

申し込み：1月19日（火）までに電話、Cメールでリーダーへ。

備考：Lは大宮から乗車します。ランプの宿高峰温泉 TEL0267-25-2000 は標高2000mに建つ宿で野鳥教室、自然観察、星の観察会など楽しみが沢山ありますので温泉を楽しむだけの参加もOKです。尚、スノーシュー装備一式、スパッツは無料で借りることができます。

No. 3, 608 ^{せんじゅやま}千手山から^{だん さ えもん}弾左衛門ノ峰 < B > L 飯田隆一

2月13日（土）7：50JR 高尾駅北口バス乗り場集合 高尾8：10（陣馬高原下行バス）＝8：25 大久保－（浄福寺を通り）－20分千手山（356.4m△）－20分小津峠－50分力石峠－40分536m点－30分高留沢ノ頭（589m）－25分鳥切場－15分弾左衛門ノ峰－25分495mを通り81号鉄塔－30分西ゲイト沢橋－25分関場

バス停

歩程：4時間20分+1時間30分……5時間50分

地図：“五日市、与瀬、八王子、拝島”

費用：約2,500円

申し込み：2月11日（木）までにメール、電話でリーダーへ。

備考：高尾駅のバス乗り場は混雑しますので早目に来て下さい。軽アイゼン持参。松浦著「バリエーションルートを楽しむ」P87参照。

No. 3,609 日和田山～物見山 <C> L 菊地玉記

2月14日（日）西武池袋線高麗駅8:41集合（西武池袋線、池袋7:42=8:32飯能8:33=8:41高麗）-20分登山口-40分日和田山（305.1m）-20分高指山-40分物見山（375.4m）-40分北向地藏-30分武蔵横手

歩程：3時間10分+1時間30分……4時間40分

地図：昭文社“奥武蔵・秩父”

費用：約1,300円（西武線池袋駅起点）

申し込み：2月12日（金）までに電話、メールで

備考：雨天中止、申込者に連絡します。

No. 3,610 草木尾根から要倉山 L 飯田隆一

2月23日（火・祝）中央線藤野駅7:52集合（高尾7:39=7:52藤野）8:10発（和田行バス）=8:24和田-1時間10分醍醐峠（篠窪峠）-1時間20分高茶山（732m）-50分要倉山（549.3m△）-1時間10分関場バス停

歩程：4時間30分+1時間30分……6時間

地図：2.5万図“五日市、与瀬、”

費用：約3,500円

申し込み：2月21日（日）までに電話、メールでリーダーへ

備考：軽アイゼン持参。

No. 3,611 富士山の絶景が楽しめる金時山へ L 飯島正子

2月27日（土）小田急線小田原駅7:54集合（新宿6:20（新宿発小田原行急行）=7:54小田原）8:10桃源台行き箱根登山バス（仙石経由）=8:52仙石バス停 9:10歩き出し-25分金時神社入口-1時間稜線-30分金時山（1,2121m）-50分乙女峠-1時間金時神社入口-25分仙石バス停小田原へ

歩程：4時間10分+1時間……5時間10分

地図：昭文社“箱根”

費用 約 4,000 円

申し込み：2月25日（木）までにショートメールでリーダーへ

備考：軽アイゼン、スパッツをお持ちください

No. 3, 612 惣岳山

L 五十嵐智也

2月28日（日）青梅線軍畑駅 8:40 集合（立川 7:57 = 8:40 軍畑）-1 時間
25分 556m点 - 20分 614m点 - 40分 惣岳山 - 40分 544m点 - 20分 490.5m△ - 1
時間軍畑駅

歩程：4時間25分 + 1時間35分……6時間

地図：2.5万図“武蔵御岳”

費用：約 2,500 円

申し込み：2月26日（金）までにSMSでリーダーへ。

備考：簡単なバリエーションルート。軽アイゼン持参。

《 11 月 の 山 行 報 告 》

No. 3, 591 浅間嶺 <C>

パーティ：女性 8 名 / 男性 2 名 計 10 名

11月1日（日）晴。前日増子さんから立川での乗換の問い合わせがあつて初めて青梅線への乗換は複雑と思い同じ方向から見える佐近さんをお願いしました。当日五日市駅前からはコロナもあつて臨時バスが4台も出ました。人里（へんぼり）登山口はトイレがあつたので皆んなで入りゆっくり歩き出しました。気候も良く登りはさほど急登でないし道も荒れてないので私が一番気に入つており是非皆さんをお誘いしたい登山道だったので。途中住んでない民家がありここは休んで景色を見られる庭がありました。竹林を過ぎて少し広い場所で休み、杉がきれいに伐採されているゆるく傾斜した道を登って尾根道に出たところが人里峠でした。一休みしてここからはとても歩きやすい尾根道です。20分程歩いて、小さな杜のある尾根歩きから浅間嶺に着きました。ここで昼食をゆっくり取り富士山の勇姿をたっぷり眺め、また後方には御前山を始め奥多摩の山並みを見て楽しみました。下山には小さな薊や竜胆や白い菊に似た花が斜面をうめつくし心よい眺めでした。途中ごろごろした道を過ぎ古い茶屋を過ぎ時坂峠（本宿から五日市へ

の生活道で昔は奥多摩の古道の看板がある)への分岐を私が見落とししてしまい車道歩きを途中までしてから村人が利用している道を弘沢の滝の近くまで歩きました。弘沢の滝はチップが敷かれ歩きやすく大勢の見学の人達とすれ違い賑わっていました。滝は水量が多く水しぶきの水圧に圧倒されました。

人里バス停 10:00—人里峠 11:10—浅間嶺 11:45~12:30—峠の茶屋 13:20—時坂峠分岐 14:10—弘沢の滝 14:40—弘沢のバス停 15:20 (菊地 記)

No. 3, 592 丹沢表尾根縦走 < B > L 飯田隆一

パーティ: 女性6名/男性2名 計8名

11月1日(日)晴。タクシーを富士見山荘で降りたが、ヤビツ峠をバスで降りた人がたくさん歩いていた。秦野駅には8人乗りのタクシーはなく6人乗りの車しかない。ヤビツ峠付近から富士見山荘の先まで道路わきのちょっとした隙間にも車が駐車していた。富士見山荘から沢山の登山者と一緒に歩き始めた。天気が良いので登山者は多いが気持ちが良い。沢山の人たちに追い越されながらゆっくり登った。相模湾も大島も見えていた。新大日の手前のピークで昼食。岩場では登ってくる人もいたので渋滞した。歩いていると暑いと休んでいると寒くなる。塔ノ岳の頂上にも沢山の人がいた。これ程人の多い山は久しぶりだ。下りは大倉バス停に向けてひたすら下る。非常に長かったが出発間際のバスに間に合った。

富士見山荘 8:50—二ノ塔 9:50—烏尾山 10:40—食事 11:50~12:15—新大日 12:25—塔ノ岳 13:10~30—花立山荘 13:55—堀山の家 14:40—大倉バス停 16:05 16:10のバスに乗る (飯田 記)

No. 3, 593 本仁田山 < B >

パーティ: 女性5名/男性3名 計8名

11月7日(土)晴。花折戸尾根のとりつきへの橋が通行不能になり、やむを得ず民家の敷地を通り山に入った。急登ののち、三角点のあるチクマ山に至った。筑摩山と書かれた小さな木札が木にぶら下がっていた。この木札、以前には無かったかも知れない。

明るい尾根に出て藪っぽい所を抜けると本仁田山がどっしりした姿を見せた。しばらく急登すると頂上に着いたが、30人から40人程の団体がいたので、頂上より少し下の日当たりの良い所で食事にした。今日は眺望も効かず富士山も見えない。長い休憩の後、奥多摩へ向う一般道を下りた。急な下りなので慎重にゆっくりと下りた。青空に紅葉が映え、快適な山行であった。

鳩ノ巣駅 9:30—チクマ山 12:00—本仁田山 12:50~13:30—安寺沢 14:50—奥多摩駅 15:40 (五十嵐 記)

No. 3594 栗の木洞から鍋割山 < B >

パーティ：女性5名／男性2名 計7名

11月14日(土) 快晴。バスを寄で降りて茶畑を見ながらくぬぎ山をめざして登っていく。真っ青な空に時々美しい紅葉が心を弾ませる。それからもう100m登りで栗の木洞へ。山道は落ち葉の絨毯が敷き詰められ、ところどころに青いりんどうが咲いている。ここより下って下って後沢乗越へ。二俣のほうから登ってくる人が加わって人が多くなった。樹林帯の中の急な登りをくり返しながら鍋割山山頂に着く。石田さん曰く「両手を広げたような美しい富士山」が迎え入れてくれた。名物の鍋焼きうどんの行列で沢山の人。昼食を早々に終え、登ってきた道を乗越まで下り、二俣へ平らな道をこれから登りたい山の話に花を咲かせながら大倉バス停へ。今回も元気な心を山からいただきました。ありがとうございました。

寄バス停 8:30 - くぬぎ山 10:00 - 栗の木洞 10:30 - 後沢乗越 10:50 - 鍋割山(昼食) 12:00 ~ 12:30 - 後沢乗越 13:40 - 二俣 14:30 - 大倉バス停 15:40 (飯島 記)

No. 3,595 吉田山～御岳山～御嶽神社(奥武蔵) < C >

パーティ：女性13名／男性4名 計17名

11月29日(日) 晴れ後曇り。予報に反して朝から好天の中、電車に乗り遅れ1名キャンセルし総勢17名で歩き出す。小さな標識を見て車道から反れ、橋を渡って余り歩かれていない草深い平坦な道を進みひと登りで森坂峠に着く。直進すれば伊豆ヶ岳へのバリエーションルート東尾根へ、右に尾根を登れば本陣山へ。吾々は左へ向う。イモリ山はルートを外れ岩っぽいピークで狭いので半数づつ交替でピークを踏む。山ツツジの咲く頃再訪したい小さな山です。ここから送電塔(今は使われていない)のピークを越え僅かの下りで峠ノ前(天寺十二丁目石)に着く。やっと17名が休める広い所に着いたのでひと休みする。ここからは子の権現から西吾野駅への一般路を下り、小床集落に入り標識に従って吉田山への登山道に入る。緩やかに登ると間もなく開けた4差路の様な場所に着き、丸太のベンチも有るので昼食タイムにする。吉田山への標識の有る階段を登り、やや急登の小さなピークを4～5回繰り返して樹林の中何も無い吉田山に着く。この山は吉田さんと言う家の個人の山でとか……。この先ざれザレた急斜面などを慎重に下り御岳神社に着く。本日の目的だった奥武蔵の紅葉の名所で例年は“紅葉まつり”で賑わう御岳神社も今年は新型コロナの流行で紅葉まつりは行われず、然もリーダーの都合で1週間山行を延ばした為か、紅葉終わりかけており、下の方に何本

か見頃のモミジが有ったのでホットしました。低山ながら小ピークが幾つも有り、結構歩き甲斐の有る山でした。参加の皆さんお疲れ様でした。

西吾野駅 9:25-10:00 森坂峠 10:05-10:25 イモリ山 10:35-11:00 峠ノ前 11:10-11:35 吉田山への分岐 11:55 小床峠 (昼食) 12:25-12:50 吉田山 13:25 御岳神社 13:40-14:15 吾野駅 (解散) (佐藤(ツ) 記)

No. 3, 596 大山北尾根 < B >

パーティ : 女性 3 名 / 男性 2 名 計 5 名

11 月 23 日 (月・祝) 曇。ヤビツ峠までのバスは満員であった。すぐに青山荘に向かうヤビツ旧道コースは荒れていて道が寸断されていた。最近の豪雨の影響であろう。青山荘から地獄沢橋の間は県道を歩くが車が多い。河原にはキャンプ場が多く家族ずれで賑わっていた。地獄沢橋から静かな山道に入る。途中から巡視路の階段になり勾配がきつくなった。境沢ノ頭で休憩、ここからは気持ちの良い尾根歩きとなった。

ミズヒノ頭の山頂銘板は見当たらなかった。途中食事をしている時に女性が登ってきた。煤ヶ谷から来たとのこと。食事時、今日の村田スペシャルはチーズケーキ。とても美味しかった。西沢ノ頭から少し先は岩っぽくなったが心配ない。モノレールが出てきて頂上は近い。大山は大変な人出であった。外人さんも多い。ケーブルで来る人がいなくなった 16 丁目から先は静かになった。浅間山はカット。蓑毛では 10 分待ちでバスに乗り帰路に就いた。

ヤビツ峠 9:15-青山荘 9:45-地獄沢橋 10:20-境沢ノ頭 11:40- (食事 12:20~50) -西沢ノ頭 13:00-大山 13:40-浅間山分岐 15:10-蓑毛バス停 15:50 (飯田 記)

《 役員会便り 》

TTCでは毎月役員が集まり山行計画を検討し、山行結果についての反省を行っております。その中で話し合った事について適時お知らせをするためにこの欄を設けました。

(12月2日の内容)

1) 新しいリーダーについて : 自薦、他薦でお願いしましたが何人かの名前が上が

りました。お願いする予定です。

2) 自家用車の使用について：登山口まで自家用車で来ることについては良くないとの意見でまとまりましたが、集合場所まではどのような方法でも良い事にしました。

3) 2) の事に関連して山行計画の書き方は集合場所を書くことにしました。

4) 新型コロナについて：1，2月に宿泊の計画を立てました。今後のコロナの状況を注意深く見ていくことにしました。

《 お知らせ 》

☆ 次の方が入会しました。

飯泉とよ子

☆ 2月の役員会は2月3日（水）練馬区役所 1906 室 17：00～19：00 です。

☆ 山行計画及び山行報告を12月31日（木）までに飯田まで提出してください。

《 熊の話 》

瀬川 仁子

雲南懇話会（雲南省の梅里雪山を中心とする雲南・チベット地域に興味、関心をもつ人が集い、様々に情報を交換しようとする会）の講演会で興味深いクマの話を知ることができました。

雲南懇話会と講演を下された東京農業大学 山崎晃司教授の承諾をいただきましたので、その内容をかいつまんでお話ししたいと思います。

まず、クマは大きい動物と思っている方が多いですが、ツキノワグマに関してはオスは人間の男性、メスは人間の女性とほぼ同じ大きさです。では講演の概要です。

ツキノワグマと人との間での軋轢の頻発、特に人身事故の増加が社会的な問題となって既に 10 数年が経っています。特に 2016 年以降はその増加が著しく、連年的な現象として捉えられています。クマの捕獲数も高止まりを続けており、2019 年には 5,000 頭以上が捕殺されました。（この状況が続けば将来ツキノワグマは絶滅危惧種となってしまいます。）

大きな背景として、山間地域での過疎、高齢化、また森林利用の低下により、クマの分布域の拡大と生息密度の増加が考えられています。よく言われる奥山のクマの生息環境としての質の低下は原因ではありませんし、ドングリなどの食物不足も特定の地域、特定の時期の理由にはなりますが、すべてを説明するものではありません。（クマの生息域の拡大は森林の拡大と連動しています。耕作放棄地が森林化したり、カヤトが森林化することによってクマの分布域が広がっているのです。また親が捕殺されてことにより人間との接し方がわからない子グマが多くなった事も一因です。）

クマは九州では 1940 年代に絶滅し、四国でも風前の灯火となっていますが、本州では世界でも稀有な数万頭の集団が残っています。今や森のあるところにはクマがいると考えて行動することが求められています。北米では数十年前から常識であった、自然公園利用の際のベアプルーフ（クマよけのフードコンテナ）の必要性を、今年の上高地テント場での人身事故の発生は教えてくれました。

実はクマに会ってからの対策を考えるのではなく「クマに逢わないように最大限の努力をする」ことが肝心です。クマのような大型動物の住む森を歩く楽しさを今後も残していけるように考えていきたいと思えます。

推奨する対策

- ・テントと調理するところを離す
- ・においの強い料理は控える。調理の残飯を埋める事や焼くことも止める
- ・クマは目が悪く、聴覚も鋭くないので沢筋・風の強い日やガスの濃い日の行動を控える
- ・バリエーションルートは避ける
- ・クマの想定より速い移動、例えばトレランやMTBは避ける
- ・クマよけ鈴より声を出したり、手をたたいた方が効果的

私たちの会では上記を完全に守ることは不可能ですが、、、、

またもしクマに出会ってしまったら顔・頭を防護して死んだふりをするには有効のようです。